

<ダビデによる。マスキール。>

- 32:1 幸いなことよその背きを赦され罪をおおわれた人は。
- 32:2 幸いなことよ【主】が咎をお認めにならずその霊に欺きがない人は。
- 32:3 私が黙っていたとき私の骨は疲れきり私は一日中うめきました。
- 32:4 昼も夜も御手が私の上に重くのしかかり骨の髄さえ夏の日照りで乾ききったからです。セラ
- 32:5 私は自分の罪をあなたに知らせ自分の咎を隠しませんでした。私は言いました。「私の背きを【主】に告白しよう」と。するとあなたは私の罪のとがめを赦してくださいました。セラ
- 32:6 それゆえ敬虔な人はみな祈ります。あなたに向かってあなたがおられるうちに。大水は濁流となっても彼のところに届きません。
- 32:7 あなたは私の隠れ場。あなたは苦しみから私を守り救いの歓声で私を囲んでくださいます。セラ
- 32:8 私はあなたが行く道であなたを教えあなたを諭そう。あなたに目を留め助言を与えよう。
- 32:9 あなたがたは分別のない馬やらばのようであってはならない。くつわや手綱そうした馬具で強いるのでなければそれらはあなたの近くには来ない。
- 32:10 悪しき者は心の痛みが多い。しかし【主】に信頼する者は恵みがその人を囲んでいる。
- 32:11 正しい者たち【主】を喜び楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ喜びの声をあげよ。

ダビデは国王であり、すべてが自分の権力で思うままにできた人でした。しかし、主の前には罪は罪としてさばかれなければならないことを知っていたのです。そこに彼の王国の繁栄がありました。支配者が主なる神を畏れていたからです。

そこで彼は告白したのは、罪を犯したのこのない人が幸いであるというのではなく、「罪をおおわれた人」が幸いだということです。人は神の愛を感じる時は、自分は正しいというときではなく、こんな自分を赦してくださいましたという感謝するときです。

しかも私たちが赦してくださいました主は、そのためにあの恐ろしい十字架にまでかかってくださいましたのです。ですから、私たちは自分がどんな状態でも主に依り頼むことができるのです。「主に信頼する者には、恵が、その人を取り囲む。」とある、そのことが実現するのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

